



編集・発行

千葉県長生地方教育研究所

茂原市東郷2300-1

TEL 0475(24)9721・FAX 0475(23)4820

H P http://www.choseikaikan.or.jp/

メール kenkyujo@beach.ocn.ne.jp



「千葉県としてのICT教育のありかたについて」

千葉県総合教育センター
研究指導主事 竹 下 輝

1 はじめに

近年のグローバル化や急速な情報化の進展により、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化してきました。次期学習指導要領では、子どもたち一人一人が自らの可能性を最大限に発揮するためには、主体的に考え、他者と協働しながら新たな価値の創造に挑むとともに、新たな問題の発見・解決に取り組むことが求められています。その取り組みに、ICTの活用は有効といわれています。

また、日常生活で、ICTを活用することが当たり前になっている現代社会において、子どもたちにはICTを受け身で使うのではなく、手段として積極的に活用していくことが求められています。

2 千葉県のICT教育の現状

文部科学省では、初等中等教育における教育の情報化の実態等を把握し、関連施策の推進を図るため、平成15年度から毎年、学校における教育の情報化の実態等に関する調査を実施しています(調査基準日：毎年3月1日)。平成27年度調査結果によると千葉県の教育の情報化の各調査項目に肯定的な回答をした割合は、以下のようになります。

【教員のICT活用指導力の状況(全校種)】

- A:教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力
全国平均83.2% 千葉県80.0%(全国41位)
 - B:授業中にICTを活用して指導する能力
全国平均73.5% 千葉県70.5%(全国34位)
 - C:児童・生徒のICT活用を指導する能力
全国平均66.2% 千葉県64.1%(全国32位)
 - D:情報モラルなどを指導する能力
全国平均78.9% 千葉県77.3%(全国31位)
 - E:校務にICTを活用する能力
全国平均79.4% 千葉県75.1%(全国40位)
- 平成27年度中にICT活用指導力の状況の各項目に関する研修を受講した教員の割合
全国平均38.3% 千葉県35.1%(全国25位)

(以上、文部科学省：平成27年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果より抜粋)

また、千葉県全体の各項目の数値の推移については下の表のとおりになります。年々、各項目の数値は上昇していますが、全国的に見ていくと千葉県でもさらなる数値の改善が必要となっています。

単位：%

項目	年度				
	23	24	25	26	27
A 教材研究等	75.6	77.5	78.8	79.7	80.0
B 授業中の活用	61.4	64.3	67.0	69.1	70.5
C 児童生徒の活用	60.9	62.3	63.0	63.8	64.1
D 情報モラル	72.9	74.4	76.0	77.0	77.3
E 校務	68.7	70.5	73.0	74.3	75.1

3 千葉県の取組

千葉県のICT教育の現状をふまえ、学習指導の効果を高め、教科の目標を達成するためのICTの有効活用に向けて、「目標の設定」と千葉県総合教育センターでの「研修事業」を行っています。

(1) 目標の設定

①新みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン
プロジェクトI

志を持ち、失敗を恐れずチャレンジする人材を育てる
～夢・チャレンジプロジェクト～

施策1

社会を生き抜く力を育む主体的な学びの確立

目標項目	現状(基準年)	目標(平成31年)
児童・生徒のICT活用を指導する能力	63.0% (平成25年度)	68.0%

②千葉県ICT活用推進5か年計画
千葉県総合教育センター策定

目標項目	現状(基準年)	目標(平成29年)
授業中にICTを活用して指導する能力	64.0% (平成24年度)	84.0%

(2) 研修事業

①教育情報化推進リーダー養成研修

・情報教育や校務の情報化を推進するなど、教育の情報化に向けた校内の組織づくりにリーダーシップを発揮できる人材を育成する。

②授業で役立つICT活用実践研修

・書画カメラや電子黒板などを活用した授業展開についての実習を行い、ICT活用による学習効果の向上を目指す。

③iPad活用研修

・iPadを授業で活用するための理論や技術を習得する。

④協働学習におけるタブレット型端末活用研修

・協働学習におけるタブレットの利活用の現状を知り、活用方法について実習を行う。

4 おわりに

社会のあらゆる分野で情報化が進展し、情報化の主役は個人となっています。情報社会の進展の中で、一人一人の子どもたちに情報活用能力を身に付けさせることは、ますます重要になっています。

また、教員がICTを活用して学ぶ場面を効果的に授業に取り入れることにより、子どもたちの学習に対する意欲や興味・関心を高め、「わかる授業」の実現につながると思います。しかし、ICTは万能ツールではありません。あくまで補助ツールとして考え、普段の授業設計をしっかりとした中で活用していただければと思います。



「ICTを有効活用した授業実践について」

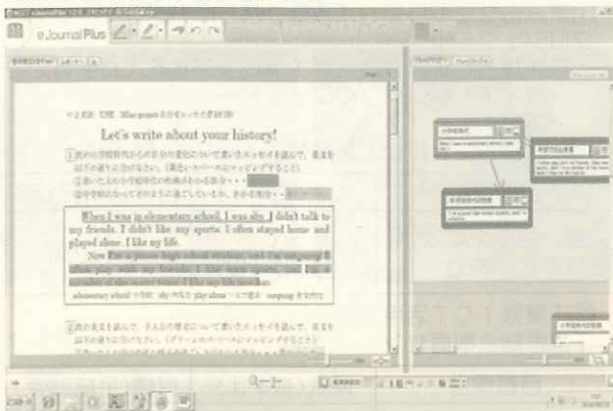
千葉市立幸町第二中学校
教諭 篠崎 伸子

はじめに

平成22年度に千葉県総合教育センターの研究協力員としてeJournalPlusというソフトウェアの実践研究を行いました。平成25年度は千葉市長期研究生として千葉大学でタブレット端末を英語の授業に取り入れる研究を行いました。現在は、授業でタブレットにデジタル教科書をダウンロードし、ワードやパワーポイントを用いた英語の授業を行っています。

1 eJournalPlusソフトを使った授業実践

批判的読解力を身につけるために開発されたこのソフトを英語のライティング活動に応用しました。英語の中学1年生の生徒を対象として「書くこと」の活動を以下の3段階のように行いました。



(1) マッピングによる英文解釈

上の写真の左画面にある文章の重要箇所アンダーラインを引き、右画面に移動させてマッピングをすまて、文章構成を理解します。

(2) レポート作成

教科書以外の表現方法や単語等を提示し、マッピングすることで、鉛筆と紙では何も書こうとしない生徒でも書きたい英文を書くことができます。

(3) コメントモードでのシェアと振り返り

コメントモード機能を使うと、仲間の書いた英文の感想を、ツイッターのように複数の生徒で書き込むことができます。全員で感想を書き合うことでコミュニケーション的なライティング活動ができます。

この研究から生徒は英語を書くことが好きになり、語彙や文の量が増えて表現力の高まりが見られました。また書いた英文をプレゼンテーションする活動を続けることでスピーキングの表現力が向上しました。

<http://ejournalplus.codeplex.com/>

2 タブレット端末を用いた実践

英語の授業でタブレット端末をペアまたはグループで共有して、プレゼンテーション及びコミュニケーション活動を行いました。毎回の授業の中で話す活動をビデオ機能で録画し、その映像で互いに振り返りを行いました。継続的に自分の話す姿を振り返ることでプレゼンテーション力の高まりが見られました。写真はタブレットを使

って会話を録画している様子です。回数を重ねるごとに、会話がスムーズに行われるようになりました。タブレット



やインターネットがない環境でも、デジタルカメラなどを利用すれば同様の活動ができますと思います。検証授業では「日本文化紹介」をテーマとしてアプリに画像や文字を使ってまとめ、効果的にプレゼンテーションをすることができました。

3 デジタル教科書とタブレットを用いた授業

英語の授業では教師がタブレットを大型テレビにつないで授業をしています。デジタル教科書の他に必要に応じて板書事項をワードで示すと理解が深まります。プリントとも連動でき、授業の中で書き足して保存すれば、他のクラスでも同じことを示せます。教師が板書する時間を、生徒の机間巡視に回すことができます。パワーポイントでは絵や写真を見せて会話練習に使います。また、生徒のノートや作文などをカメラ機能で撮影すれば、その場で見せることができ便利であり、生徒の励みにもなります。

さいごに

2010年にコンピュータで授業を始めた頃は、携帯のメール機能さえ使えないほどICTが苦手でしたが、eJournalPlusで生徒がライティングの授業に夢中になり変化していく様子を見て、自分自身も変わりました。2011年はマイクロソフトの世界中の教育者が集うGlobal Forumに招待していただき各国の先進的なICT教育に触れることができました。ICTを有効活用している学校では、アントレプレナーシップ（起業家精神）や主体的な生徒の学びが育っていると感じます。現在はMIEE(Microsoft Expert Educator)として国内外の先生方とICTを通して交流をもち、学びの輪を広げています。ICTは生徒の主体的な学びを助け、世界中の人と学級の壁を越えて交流することを可能にし、学ぶことの意義について考えさせてくれます。

さいごに、Microsoft Educator Networkという教育サイトを紹介します。このサイトから教材などのリソースを無料で利用できます。オンラインで学べる様々なコースがあり、Skype等の交流方法や相手先、テーマの選択等ができます。ご利用いただければ幸いです。また、拙い研究ですが紹介させていただく機会をいただきありがとうございます。

リンク先 <https://education.microsoft.com/>

「生徒一人ひとりの人間力の向上」

～ I C T を活用した指導法の工夫・改善を通して～
茂原市立南中学校

1 はじめに

本校は、平成27・28年度の2年間にわたり茂原市教育委員会の学習指導の指定を受け、ICTの有効な活用の在り方を探ってきた。日頃の授業にICTを積極的に活用することにより、我々の授業力の向上とともに、「学びの場」の工夫・改善を目指してきた。合わせて生徒の育成すべき資質・能力の具体的な姿を明確にし、どのように高めていくかという視点を大切にする中で、本校の研究主題に迫っていかたいと考えた。

2 研究目標

各教科において、人間力を高めるために、授業の中でICTの活用を含めた手立てを工夫することにより、生徒一人ひとりの人間力の向上を目指した学習指導の在り方を探る。

3 研究仮説

各教科の特性を生かしながら育める人間力の要素を整理し、学習指導の中でICTを有効・適切に活用し、生徒主体の学習活動を工夫すれば、学力が向上し、人間力が総合的に身に付くであろう。

4 研究内容

- (1) 「人間力」の定義とめざす生徒像について
- (2) めざす生徒像の具現化に向けた取組

5 研究の実際

- (1) どのような力を生徒に身に付けることが「人間力」の育成に必要なかを検討した。基礎学力の低下が叫ばれる中、知識の習得のみが「人間力」の育成につながることは考えられない。そこで、古藤氏(2006)が述べる「自立した一人の児童生徒として認知的・技能的・情意的なバランスをとりながらそれらを高め総合的に発揮していく力」を人間力と定義し、その構成要素のうち、「思考力・表現力」「感動」「信念・価値観」「行動力」の育成に重点を置き、次の4つを本研究でのめざす生徒像とした。

- I 思考し表現できる生徒
- II 感動できる生徒
- III 豊かな心を持った生徒
- IV 行動力のある生徒

- (2) ICT等を用いた主な実践例

I 思考し表現できる生徒の育成

① 育成すべき能力の検討

教科・領域において、育成したい能力を明らかにした。また、具体的な取組を検討し、指導のポイントを明確にするとともに、ICT等を積極的に活用し、指導方法を工夫・改善することを目標とした。

② ICTを活用した授業の工夫・改善

機器が十分にそろっている環境ではないが、工夫次第では効果が大きいことが明らかとなった。画像や資料を効果的に提示することは関心・意欲を持たせることに有効であり、授業の一場面での活用が有効である(図1)。教科書の挿絵や生徒のプリントを投影することは、視線が自然と上がり、生徒の理解を助けることができる(図2)。タブレットで「遅延再生機能」を用いて、自らの動きを知り課題を明確にすることができる(図3)。他の機能と組み合わせることでさらに効果が得られる。撮影をし映像を視聴することで、

自分自身を客観的に見つめ改善していくことにも有効である(図4)。



図1(国語科)



図2(数学科)



図3(保健体育科)



図4(英語科)

II 感動できる生徒の育成

校外学習等で、話し合いの場を意図的に設定した。1学年では5クラスをバス4台、カッター7艇に振り分け、円滑にグループ編成をすることができた。2学年では、キャンプファイヤーの企画をする中で、アイデアに対して、実現可能か、問題点はないかと考えることができるようになった。話し合い活動の充実が生徒の主体性の育成に大いに効果があると思われる。

III 豊かな心を持った生徒の育成

道徳の時間に、県の映像教材を積極的に活用した。掲示物を活用しながらストーリーや登場人物の確認に役立てた(図5)。興味・関心を持たせることに有効である。



図5(道徳)

IV 行動力のある生徒の育成

生徒会活動において、話し合い活動の充実を目指した。従来は、PDCAサイクルのA(改善)の段階が薄く、毎月の目標を達成できたかどうかという話し合いで終わる傾向があった。生徒による主体的な取組を促すために、今年度は、学級会を生徒会活動に位置づけ、学級会→代表者委員会→専門委員会という流れをとった。学級でのC(評価)からスタートすることができ、代表者委員会では、C(評価)とA(改善)に重点を置けるようになった。CAPDサイクルに改善することで、生徒の手による生徒会活動が行えるようになった。

6 最後に

私達が生徒の実態を把握した上で、育てたい力を明確にし、その力の育成に向けてどのようにアプローチしていくかを検討することが大切である。本研究を通して、どのような視点で取り組み、生徒どのように育てていきたいかを明確にし、1つ1つの着実な実践を積み重ねていくという私達の姿勢が一番大切であると感じた。

(文責 中館 武優)

「小学校におけるICT教育の実践について」

長南町立西小学校

1 はじめに

本校では、平成22年度に総務省の「絆プロジェクト」によりICT機器が整備され、全学級に電子黒板と児童一人一人に一台ずつタブレットパソコンが配置された。また、町の支援によりデジタル教科書が導入され、教師は電子黒板での問題や資料の提示を行い、児童はタブレットパソコンを使った調べ学習、漢字・計算のドリル学習などを行っている。

そこで、これまでの実践を踏まえ、効果的なICTの活用方法を精査していくために、校内研究に取り組んだ。

2 研究主題

確かな学力を身につけるための授業づくりのあり方—教科・領域を通しての効果的なICT活用—

3 研究仮説

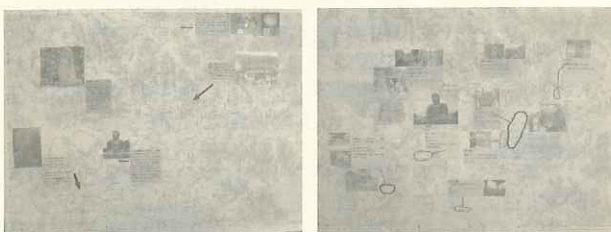
- (1) インターネットを活用し、町内の4小学校の児童が情報や意見を交換し合うことで、小規模校の人数的な課題を克服し、学習内容をより広めたり、深めたりすることができるであろう。
- (2) 4校が同じICTを活用した学習を行うことで、統合・進学した際の児童間のICT活用能力の差を減少させることができるであろう。

4 研究内容

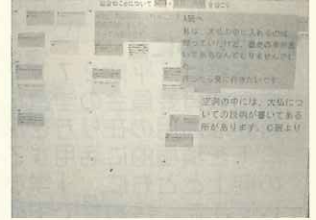
- (1) 4校の協働学習
町内の4小学校が鎌倉校外学習に行った際の情報について、インターネットを通して共有したり、質問や意見を交換し、教え合ったりすることで、それらの情報を生かして計画を立てたり、まとめの新聞作りに役立てたりする。
- (2) ICTの活用
協働学習支援ソフトで、インターネットを通して情報や意見を交換したり、鎌倉の情報を共有する資料やまとめの新聞を作ったりする。

5 研究実践

- (1) 資料作成から意見交換まで
 - ① 協働学習支援ソフトに鎌倉市の地図をグループ数用意した。それをもとに資料の作成方法を説明し、操作させることで、活動内容や操作方法を理解させた。
 - ② 必要な画像を選んで貼り付け、説明やアドバイスを書き、4小学校それぞれが作成した資料をインターネットを通して共有した。



- ③ 他校の児童と訪れた場所について情報や意見を交換し、鎌倉についての理解を深め合った。



- (2) これまでの学習で意見交換をもとにした新聞作りと発表

- ① 鎌倉校外学習で訪れた場所について、協働学習支援ソフトで個人の新聞を作成した。
- ② グループ新聞の構成を話し合い、協働学習支援ソフトを使って新聞にまとめ、各小学校に公開した。



- ③ 各グループで作成した新聞を電子黒板やタブレットパソコンを使って、他のグループや下級生に発表した。

6 仮説の検証

- (1) 児童数が増えたことで活発な情報や意見の交換ができた。共通の話題に関して情報や意見を交換したことで、交流を深めると共に、訪れなかった場所についても知ることができた。また、他校の意見を参考にすることで、事前の計画立てに役立てたり、新聞をより詳しくまとめたりすることができた。

他校への移動の手間もなく、学習時間を確保できた。また、発表で意見を述べるのが苦手な児童も戸惑うことなく自分の考えを画面上で表現することができるため、意欲的に取り組むことができた。

- (2) 今回、資料と新聞作りの全てにおいて町内の4小学校の6年生児童一人一人がパソコンを活用して学習を行った。それにより、各小学校の児童が文字入力や画像の貼り付け方を理解すると共にICT活用能力の差を減少させることができた。

7 課題

- (1) 他校の児童と情報や意見を交換する際、学習内容に無関係な内容があったため、事前に各学校の担任間で学習のねらいを共有し、情報や意見の交換を行う必要がある。
- (2) 6年生でキーボードでのローマ字入力、画像の貼り付け、ICT機器を使った発表を行うために、1年生から発達段階に応じてICT機器を操作する時間を指導計画の中に位置づける必要がある。特に、ローマ字入力の習得には時間がかかるため、繰り返しの練習が必要となる。

(文責 伊藤 大夢)



「ICTを有効活用した指導の実践について」

いすみ市立東小学校
喜多原 直哉

1 はじめに

私たちを取り巻く情報環境は複雑・多様化し、子どもたちもそのような中で生きている。子どもたちは、私たちよりも早く情報環境に慣れ、複雑・多様化している情報を扱っている。しかし、子どもたちを取り巻く事件や問題が後を絶たない。子どもたちが情報環境の中で生きていくために、以下の情報教育の目標に照らし合わせた指導が重要となってくる。

2 情報教育の目標

2010年10月に文部科学省が発行した「教育の情報化に関する手引」において、情報教育の目標を3観点と8要素でまとめている。

【情報活用の実践力】

- 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
- 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

【情報の科学的な理解】

- 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
- 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

【情報社会に参画する態度】

- 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- 情報モラルの必要性や情報に対する責任
- 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

3 学習指導におけるICT活用

<国語>

- テレビにアプリ「そらがき」を映し出し、新出漢字の一斉指導を行う。(全学年)
- テレビにアプリ「鳥獣戯画」を映し出し、描かれている細かい部分に着目させる。(6年)

<社会>

- 調べて分かったこと等をジャストスマイルで新聞やはっぴょう名人にまとめさせる。
- 歴史上の人物をアプリ「Flash Card」で作成し、テレビに映し出して歴史人物クイズ等を行う。(他教科でも使用可能)
- アプリ「Google Earth」で地形を上空から見て確認させる。

<算数>

- アプリ「QB説明」により、自力解決の手助けを行う。(1年～6年の単元がある。)

<理科>

- ジャストスマイルの表計算を用いて、実験や観察の結果を表やグラフにまとめさせる。

<生活>

- カメラ機能を使って地域の人々や施設、生き物等を撮影し、発表の際にテレビに映し出す。(デジタルカメラでも可能)

<図工>

- アプリ「ストップモーション」や「iMovie」で短編アニメーションを作成させる。

<体育>

- 動画遅延アプリ「Video Delay」で自分の技の確認をさせる。(器械運動や陸上運動に効果がある。)
- アプリ「デジ体」や「水島宏一の器械運動」で自分の技を保存して変容を確認させたり、日本の動画を見て技能のポイントを確認させたりする。

<家庭科>

- アプリ「クックパッド」により、調理計画を立てる際の手助けを行う。

<外国語>

- 絵や英単語をアプリ「Flash Card」で作成し、テレビに映し出して単語練習等を行う。(他教科でも使用可能)

<総合的な学習>

- 調べたことや体験したこと等をジャストスマイルで新聞やはっぴょう名人にまとめさせる。(地域に発行する新聞では、情報モラルを意識させることも大事である。)

- 調べたことや体験したこと等をアプリ「iMovie」や「Keynote」にまとめ、テレビに映し出し発表させる。

<全教科>

- テレビにアプリ「NHK for School」を映し出し、動画を見せる。(各教科・各領域)
- アプリ「Kocri」を用いて黒板に図形や罫線、地図、写真等を映し出す。

【アプリ一覧】



そらがき



鳥獣戯画



Flash Card



QB説明



ストップモーション



iMovie



Video Delay



デジ体



クックパッド



Keynote



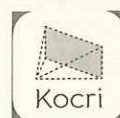
Google Earth



NHK for School



水島宏一の器械運動



Kocri

4 おわりに

ICT活用は、私たち教員の指導の質を高め、子どもたちの学習への理解を深めさせたり知識を高めたりすることが目的である。使うことが目的ではなく、子どもたちにどんな力を身につけさせたいかを常に考えなければならないと思う。

長生郡市教務主任研修会報告

本年度は現在までに4回の「長生郡市教務主任研修会」を開催しました。年明けの1月25日(水)に5回目の今年度最後の研修会を実施します。今年度は、第1回研修会の部会別研修(小・中別)の中で、「教務主任研修会全体会で取り上げてほしい内容(講師による講話内容)」と「部会で実践していく内容」の話し合いを行い、教務主任が抱えている現在の教育課題について研修を深めていけるように計画し、実施してきました。

毎回、下記のような内容で、「全体研修会」「部会別研修会」を実践してきました。

【全体研修】

- 第1回《5月18日(水)》
千葉県教育庁東上総教育事務所指導室
指導室長 高山 裕司 様
「東上総区の教育的課題・学校訪問の充実に向けて」
- 第2回《6月22日(水)》
千葉県教育庁東上総教育事務所指導室
主席指導主事 鈴木 栄治 様
「アクティブ・ラーニングについて」
- 第3回《10月19日(水)》
千葉県教育庁東上総教育事務所管理課
管理主事 齋藤 勝史 様
「教育法規演習」
- 第4回《11月16日(水)》
千葉県教育庁東上総教育事務所指導室
指導主事 川崎 宏薫 様
「道徳の教科化について」
- 第5回《平成29年1月25日(水)に実施予定》
千葉県教育庁東上総教育事務所指導室
指導主事 福田 茂博 様
「外国語活動について」



【部会別研修】

- 第1回《5月18日(水)》(小・中別)

小学校A

- ①全体会で取り上げてほしい内容
 - ・道徳の教科化について
 - ・一日の時程の組み方について
 - ・外国語活動について
 - ・特別支援教育・合理的配慮について
 - ・アクティブ・ラーニングについて
- ②部会で実践していく内容
 - ・訪問関係の情報共有
 - ・学校の取組の共有
 - ・統廃合の手順
 - ・小中連携
 - ・特別支援教育
 - ・特別支援コーディネーターと支援員との打ち合わせ時間の確保
 - ・モジュールについて
 - ・外国語活動について

小学校B

- ①全体会で取り上げてほしい内容
 - ・道徳の教科化について
 - ・外国語の教科化について
 - ・アクティブ・ラーニングについて
- ②部会で実践していく内容
 - ・日々の疑問等の意見交換
 - ・指導室訪問の提出書類について

中学校

- ①全体会で取り上げてほしい内容
 - ・教務主任が抱える現在の課題
- ②部会で実践していく内容
 - ・教務主任が抱える現在の課題
 - ・授業時数の確保のための工夫
 - ・訪問に向けての準備について
- 第2回《6月22日(水)》(中学校区別)

1班

- ・学校公開を通しての小中連携について
- ・学校保健委員会の活用について
- ・小中の教員の連携、授業の実践、中学校教員による小学校外国語活動の実施について
- ・中学校の学力の二極化について

2班

- ・小中連携について

3班

- ・中学校区での各主任の話し合いについて
- ・新入生説明会での体験学習について
- ・職場体験学習での連携について
- ・児童生徒に関わる連携について

4班

- ・生徒指導の情報交換の重要性について

5班

- ・エアコンの導入・使い方について
- ・介助員・支援員について
- ・学校施設について
- ・ICT機器について

6班

- ・訪問について
- ・小中連携について
- ・合併による影響について
- 第3回《10月19日(水)》(小・中別)

小学校A

- ・訪問に関して
- ・学力・学習状況調査後の対応について

小学校B

- ・訪問に関して
- ・学習指導要録の書き方について
- ・教務と副教務の役割について
- ・教材費の取り扱いについて
- ・外国語活動について

中学校

- ・指導主事訪問について
- ・各学校の課題

研究所各部の活動紹介

ここでは、長生教育研究所各部の中間報告を紹介させていただきます。

情報部

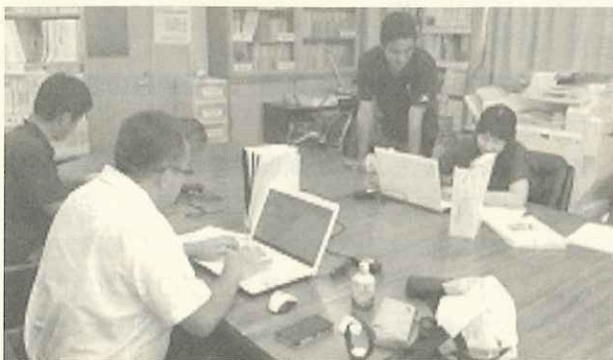
研究主題

電子化した指導要録の使い方と、研究紀要の目録の作成

研究内容

昨年度作成した電子化した指導要録について、その良さを知ってもらうために、使い方のマニュアルを作成しています。

また、これまでに各学校で作られた近年の研究紀要の書籍目録を作成しています。研究所内の本棚にある、これまでの各学校の研究紀要を調べ、単元、内容が一目でわかるような目録を作成しているところです。



先生方に、まずは見てもらうために、まとめたものを各学校に配布しようと考えています。年度末には出来上がりますので、それを見てご活用いただければ幸いです。

調査部

研究主題

部活動の実態・意識に関する調査研究

主題設定の理由

運動部活動を運営するにあたっては、平成20年7月に千葉県教育庁教育振興部体育課から「安全で充実した運動部活動のためのガイドライン」が示された。その中で運動部活動は、学校教育活動の一環として、スポーツに興味と関心をもつ同好の児童・生徒が、教師（顧問）の指導のもとに、主に放課後などにおいて自発的・自主的に運動やスポーツを行うものと意義づけられている。

また、平成20年3月に告示された中学校学習指導要領では、部活動は、「学校の教育の一環として、教育課程との関連が図れるよう留意すること」と示されている。しかしながら、昨今、生徒数の減少、指導者

の高齢化などの影響により、さまざまな制限が生じている反面、生徒のニーズの多様化や活動場面の広域化など新たな課題も指摘されている。また、依然として思わぬけがや事故が発生し、問題視されている。

このような中、運動部活動を通して、「自分の健康や安全は、自分で身に付けることができる、活力のある生徒」を育成することが、今まで以上に求められており、学校としても、活動内容や安全面で配慮する必要が求められている。

そこで、茂原市・長生郡内での部活動に対する児童・生徒の実態や保護者の意識、指導者の意識等を調査し、実態把握をするとともに、今後の部活動指導に向けての一助となるようにしていきたい。



研修部

研究所研究紀要発表会及び長期研修生報告会を平成28年8月10日（水）に長生教育会館において開催いたしました。ご多忙の中、多数の先生方のご参加をいただきありがとうございました。

研修部では、7月、12月、3月の年3回、「研究所だより」を発行しています。7月に発行された第142号では、各学校の「研究主題と研究仮説」について紹介させていただきました。また、今回の第143号では、「ICT」をテーマに各教育現場の取り組みや研究を掲載させていただきました。これからも先生方のためになる研究所だよりを目指し努力して参ります。先生方のご意見をお聞かせください。よろしく願います。



長期研修生の活動

長期研修生の授業公開について、紹介いたします。

<社会科>

長南町立長南小学校

古内 忠広 教諭

児童の社会認識をはぐくむ社会科学習の在り方

～知識基盤社会における探求のプロセスを中心に～

指導者の板書を写すことがまとめであるという認識であった児童が、自分たちで事実的知識を探求し、概念的知識を発見してまとめることができた。また、つながりを理解できずに、知識を網羅するだけであった社会科学習から、自ら必要な知識を判断し、まとめとして文章に表現する力が、全員の児童に身についた。児童の中には、それらの知識を個々の新聞にまとめ、豊かな社会認識をはぐくめた者も確認できた。



<体育科>

一宮町立一宮小学校

篠田 淳志 教諭

ゴール型のゲームにおける状況判断とサポートに関する研究

～オールコートゲームにおける攻守の切り替え時に着目した指導のあり方について～

ハンドボールの攻守の切り替え時に起こる状況判断やサポートができるように、ドリルゲーム、タスクゲ

ームを段階的に位置づけて学習した。壁鬼ゲームや切り替えサークルゲームを用いて、その効果を検証した。その結果、切り替え時における判断成功率が大きく伸び、サポートも適切な動きができるようになった。また、全ての児童の判断能力が向上し、ハンドボールを好きになった児童が増えた。



<教育臨床>

長生村立長生中学校

今井 雅浩 教諭

教育臨床プログラムの研修を通して受講者の変容のプロセスを考える

教員である私たちが一年間現場を離れて学んだ研修を通してどのように変容したかを振り返り、学校教育相談として大切にすべきことを整理し、考察する。さらに、それらの変容に至るまでのプロセスの中で私たちが考えた事や大切にしてきたことは何だったのかを研修生同士で話し合ったり、記録を振り返ったりして、その要因を検討し考察した。



教育功労表彰

○秋の叙勲 瑞宝双光章 風戸 正敏

○全国学校体育研究 優良校

茂原市立鶴枝小学校

○千葉県教育功労者表彰

〈学校教育の部 個人の部〉

茂原市立茂原小学校 校長 丸島 邦洋

〈学校教育の部 団体の部〉

長生村立一松小学校

○千葉県学校体育功労者表彰

茂原市立茂原中学校 校長 山田 育雄

掲載順につきましては、表彰式の名簿順とさせていただきます。(敬称略)

○茂原市教育功労者表彰

茂原市立東郷小学校 校長 伊藤 雅敏

茂原市立茂原小学校 校長 丸島 邦洋

茂原市立豊岡小学校 校長 河野 健市

茂原市立東郷小学校 教諭 村山 徹

茂原市立東郷小学校 教諭 大村 敏江

茂原市立二宮小学校 教諭 山岸 則子

茂原市立西小学校 教諭 伊坂美代子

茂原市立東部小学校 教諭 今田ひろみ

茂原市立本納中学校 養護教諭 酒井 京子